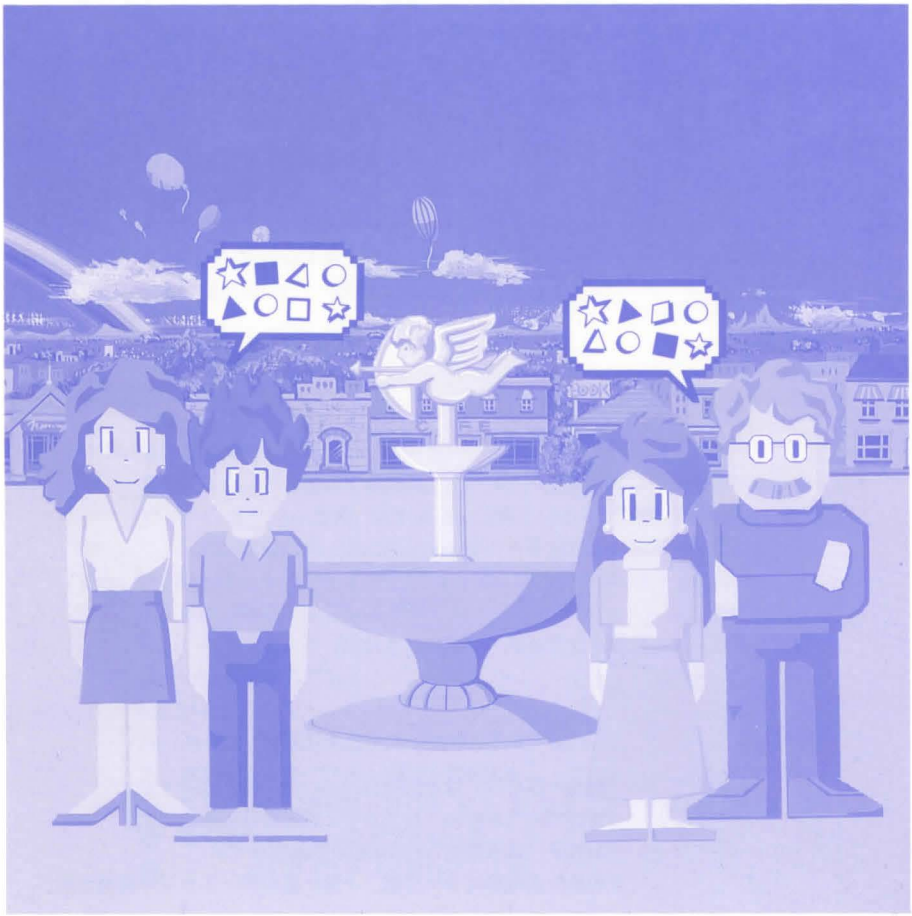
ハイパーコミュニケーションネットワーク

富士通 Habitat（ハビタット）

V2.1 L12



セットアップ／追加機能ガイド（PC-9801版）

FUJITSU

「ＭＳ－ＤＯＳ」は米国Microsoft社の登録商標です。
「ＮＩＦＴＹ-Serve」はニフティ株式会社の商標です。
「ＭＮＰ」は米国Microcom社の登録商標です。
その他の名称等については、一般に各開発メーカーの商標です。

Ⅰ　「富士通Habitat」を起動する前に

Ⅰ－1　パッケージの中身を確認する

本パッケージには、以下のものが含まれています。ご確認ください。
不足しているものがございましたら、お買い上げの販売店までご連絡ください。

① システムディスク …… 1枚
② データディスク …… 2枚
③ 操作ガイド …… 1部
④ セットアップ／追加機能ガイド …… 1部（本冊子）
⑤ お客様登録カード …… 1枚
⑥ ポピュロポリス全体図 …… 1枚
⑦ ＮＩＦＴＹ-Serveイントロパック …… 1部
⑧ 「富士通Habitat」運用のご案内 …… 1枚

Ⅰ－2　機器の接続をする

(1) 必要な機器など

富士通Habitatを使用するには、本パッケージの他に以下のものが必要です。

① ＰＣ-９８０１本体（CPU 80286/10MHz 以上／ﾒｲﾝﾒﾓﾘ 640kB以上の機種）
（同等性能のPC-286/386/486シリーズを含む）（以下「ＰＣ」）
② ＥＭＳメモリ（４８ﾍﾟｰｼﾞ（７６８kB）以上、ﾍﾟｰｼﾞﾌﾚｰﾑ = C0000 ～）
および対応するＥＭＳドライバ
③ ハードディスク（SCSIまたはSASI　空き容量７MB以上）（以下「ＨＤ」）
④ カラーディスプレイ
⑤ バスマウス
⑥ モデム（内蔵型または外付型のＡＴモデム）
⑦ 電話回線（ＮＴＴの一般加入回線）
⑧ ＮＥＣ製日本語ＭＳ－ＤＯＳ Ｖ３．３ 以上（以下「ＭＳ－ＤＯＳ」）
⑨ 日本語フロントエンドプロセッサ
⑩ フロッピィディスク（２ＨＤ）　１枚

(2) カラーディスプレイ、キーボード、マウスをＰＣに接続する
それぞれの取扱説明書を参照して、ディスプレイ、ＨＤ、マウスをＰＣ本体に接続します。

(3) モデムをＰＣ本体に接続する
モデムの取扱説明書を参照して、モデムをＰＣに接続します。
また、電話回線をモデムに接続します。

注意！：機器の接続は必ず電源がＯＦＦになった状態で行ってください。

Ｉ－３　システムおよびデータのインストール

富士通Habitatでは、データをＨＤにインストールし、起動用のユーザーディスクを作成して起動します。

(1) ＭＳ-ＤＯＳの起動
① フロッピィのＡドライブにＭＳ-ＤＯＳシステムディスクを挿入し、リセットまたは本体の電源を投入します。
② メニュープログラムが立ち上がっている場合はメニューを終了させ、ＭＳ-ＤＯＳのコマンドプロンプト「Ａ＞」が表示されてコマンドモードになるのを確認します。

(2) ハードディスクの空き容量の確認
① 富士通Habitatのデータをインストールするｈｄのドライブに十分な空き容量があることを確認します。コマンドモードから下線部を入力します。
Ａ＞ＣＨＫＤＳＫ　［ドライブ名］↵
［ドライブ名］には「Ｃ：」などデータをインストールするＨＤのドライブ名を指定します。フロッピィ起動時とＨＤ起動時ではドライブ名が異なりますのでご注意ください。
② 出力メッセージで、使用可能なディスク容量が７メガバイト以上あることを確認してください。不足している場合は、不要なファイルを削除して必要な容量を確保してください。

(3) ユーザーディスクの準備
起動用に使用するユーザーディスクの準備をします。
新しい２ＨＤのフロッピィディスクを１枚用意し、システムフォーマットします。
① コマンドモードから下線部を入力します。
Ａ＞ＦＯＲＭＡＴ　［ドライブ名］　／Ｍ　／Ｓ↵
［ドライブ名］には「Ｂ：」などフロッピィのドライブ名を入力します。
② メッセージに従って、用意したフロッピィディスクをドライブに挿入し、どれかのキーを押します。
③ フォーマットが終了したら、ボリュームラベルは入力せずにリターンキーを押します。
④ 「別のディスクをフォーマットしますか？(Y/N)」にＮを入力してコマンドモードに戻ります。
⑤ ここでフォーマットしたディスクが起動用のユーザーディスクになります。

(4) 起動用ユーザーディスクとHDに、富士通Habitatをインストールします。

① Aドライブのフロッピィを富士通Habitatのシステムディスクに交換し、インストールツールを起動します。

A>INSTALL↵

② 画面に出力されるメッセージに従って、インストール作業を行います。

i）「インストール先ハードディスク」には、(2)で確認したインストール用のHDのドライブ名を指定します。
インストールツールは、指定したドライブのルートディレクトリに「HABITAT」というディレクトリを作成し、その下にデータをインストールしていきます。

ii）以後、メッセージに従ってフロッピィを交換していきます。

③ 富士通Habitatのシステムディスクと、データディスク1～2をすべてインストールすると、インストールツールは終了します。

(5) EMSドライバの組み込み

起動用ユーザーディスク内のファイル「CONFIG.SYS」の中に、EMSメモリを使用可能にするためのEMSドライバ組み込みの指定を追加します。

① ご使用になるEMSメモリの仕様に合ったEMSドライバのファイルを起動用ユーザーディスクのルートディレクトリにコピーします。

（ハードEMSの場合は各EMSボード付属の専用ドライバ、386のプロテクトメモリ利用仮想EMSの場合はMS-DOS付属のEMM386.SYSなど）

② CONFIG.SYSを、MS-DOSのEDLINコマンドなどのエディタで編集し、DEVICE文を使って①でコピーしたEMSドライバを組み込む指定を記述します。

③ 富士通Habitat利用時には、48ページ（768kB）のEMSメモリが必要になります。EMSのページフレームは、必ずC0000番地以降に64kB以上連続で設定してください（裏VRAM領域（B0000番地～）にページフレームを設定するEMSドライバはご使用になれません）。

④ ページフレームをC0000番地～に設定するとき、サウンドBIOSのROMを切り離す必要がある場合があります。詳しくはPC本体やサウンドボード、各EMSドライバのマニュアルを参照してください。

ページフレームアドレスの指定方法などの組み込みオプションについては、ドライバの種類によって異なりますでの、各EMSドライバのマニュアルを参照してください。

【例1】MS-DOS V3.3に付属のEMM386.SYSを利用する場合
DEVICE=EMM386.SYS /P=32 /F=C000

【例2】メルコ社製のハードEMSを使い、付属のドライバMelwareを利用する場合
DEVICE=MELEMM.SYS

(6) 日本語フロントエンドプロセッサ（FEP）の組み込み

起動用ユーザーディスク内のファイル「CONFIG.SYS」の中に、日本語を入力するための日本語FEPの組み込みの指定を追加します。日本語FEPは、MS-DOS付属のNECAIの他、ATOKやWXⅡ+など市販のものも利用できます。

① 使用する日本語FEPのドライバファイルを起動用ユーザーディスクのルートディレクトリにコピーします。また、日本語FEPの辞書ファイルはHD上に置いておくことをおすすめします。

② CONFIG.SYSを、MS-DOSのEDLINコマンドなどのエディタで編集し、DEVICE文を使って①でコピーした日本語FEPを組み込む指定を記述します。

辞書ファイルの指定などの組み込みオプションについては、FEPの種類によって異なりますので、各日本語FEPのマニュアルを参照してください。

【例1】MS-DOS V3.3に付属のNECAIを利用する場合（辞書はCドライブ）
DEVICE=NECAIK1.DRV
DEVICE=NECAIK2.DRV C:NECAI.SYS

【例2】ATOK7を利用する場合（辞書はCドライブ）
DEVICE=ATOK7A.SYS
DEVICE=ATOK7B.SYS /D=C:¥ATOK7.DIC

※ 日本語FEPによっては、EMSに作業領域を設定するものがあるため、(5)のEMSドライバ設定時に多めにEMS領域を確保しておくことをお薦めします。

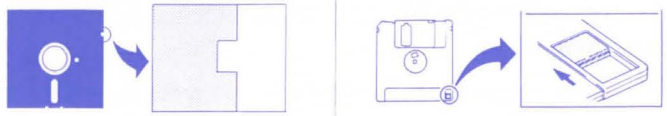
(7) インストール作業終了後の富士通Habitatシステムディスクおよびデータディスクは、富士通Habitat起動時には必要ありません。大切に保管してください。

Ⅱ　「Habitat国」入国の準備

Ⅱ－1　ソフトを起動／終了する

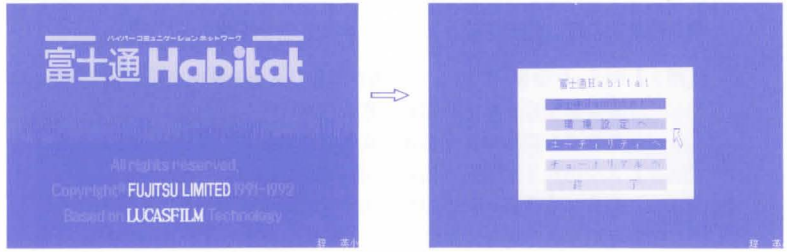
【ソフトを起動する】

(1)　Ⅰ－3で作成した起動用ユーザーディスクを、PCのフロッピィAドライブに挿入します。
この際、フロッピィは書き込み可能な状態にしておきます（下図参照）。



(2)　PCおよびHD、ディスプレイ、モデムの電源をONにします。
⇨　オープニング画面が表示され、テーマ音楽が演奏されます。

(3)　マウスのボタンをクリックします。
⇨　オープニング画面が消え、メニュー画面に切り替わります。



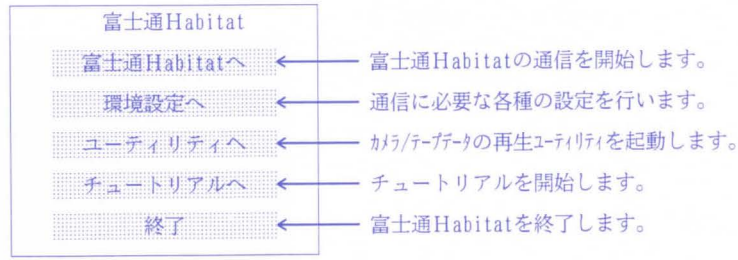
【ソフトを終了する】

(1)　ユーザーディスクがAドライブに入っていることを確認します。

(2)　メニュー画面の 終了 の項をマウスカーソルで指して、左ボタンをクリックします。
⇨　ソフトが終了して、MS-DOSのコマンドモードに戻ります。

Ⅱ－2　メニュー画面の内容

起動後のメニュー画面は、以下のような構成になっています。



メニューの各項をマウスで左クリックすることにより、それぞれの機能を使うことができます。

Ⅱ－3　チュートリアルを動かしてみる

実際に通信を始める前に、以下の手順でチュートリアルを受けると、富士通Habitatのおおよその様子があらかじめご理解いただけます。操作に不安のある方は、なるべくチュートリアルで練習してから通信を始めることをお薦めします。

(1)　メニュー画面の チュートリアルへ の項をマウスで左クリックします。
⇨　チュートリアルが開始されます。
(2)　画面に現れるメッセージに従って、操作をしてください。
(3)　チュートリアルを中断するときは、マウスの左ボタンと右ボタンを同時にクリックします。
(4)　チュートリアルが終了すると、メニュー画面に戻ります。

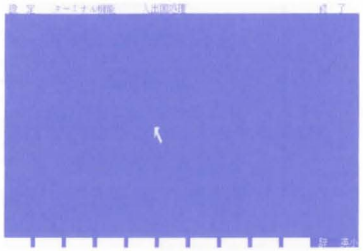
Ⅱ－4　通信環境を設定する

通信を行うために、ＰＣや電話回線の設定をします。

(1)　Ⅱ－１の手順でソフトを起動します。

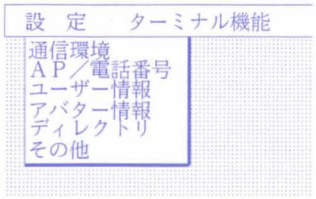
(2)　メニュー画面の 環境設定へ の項をマウスで左クリックします。
⇨　環境設定画面に切り替わります。

・「終了」を左クリックすると、メニューに戻ります。

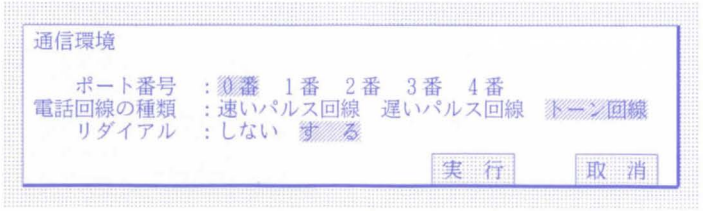


(3)　設定画面の「設定」の項をマウスで左クリックします。
⇨　プルダウンメニューが開きます。

・プルダウンメニューの枠の外を右クリックすると、プルダウンメニューが閉じます。



(4)　プルダウンメニューの「通信環境」の項を左クリックします。
⇨　通信環境設定のウィンドウが開きます。



各項目の設定は、マウスで左クリックして行います。

①　ポート番号　　：　ご使用のRS-232Cインターフェースのポート番号を設定します。通常は「０番」を選びます。

②　電話回線の種類　：　ご使用の電話回線の種類を選びます。
・速いﾊﾟﾙｽ 回線 -- 一般家庭用の20ppsﾀﾞｲｱﾙ回線
（電話機がﾌﾟｯｼｭ型でも、ﾀﾞｲｱﾙ時に「ﾌﾟｯﾌﾟｯ」という音が聞こえるものは、この種類です。）
・遅いﾊﾟﾙｽ 回線 -- 内線電話等の10ppsﾀﾞｲｱﾙ回線
・トーン回線 ----「ﾋﾟ･ﾎﾟ･ﾊﾟ」の音がするﾌﾟｯｼｭ回線

③　リダイアル　　：　アクセスポイントに電話をかけても話中などでつながらなかった場合に、自動的に電話を掛けなおすかどうかを指定します。

(5)　すべての項目を設定したら、 実行 または 取消 でウィンドウを閉じます。
・ 実行 を左クリック　⇨　新しい設定にしてウィンドウを閉じます。
・ 取消 を左クリック　⇨　元の設定のままでウィンドウを閉じます。

Ⅱ－5　アクセスポイントと電話番号を設定する

富士通Habitatへのアクセスは、全国に多くのアクセスポイント（ＡＰ）を持つ、富士通の「ＦＥＮＩＣＳ」というネットワークを利用します。
ここでは、最寄りのＡＰの電話番号を設定します。ＡＰの一覧は、付属の「ＮＩＦＴＹ-Serveイントロパック」に記載されています。

(1) 環境設定画面の「設定」プルダウンメニューを開き、「ＡＰ／電話番号」を左クリックします。
⇨　ＡＰ電話番号設定のウィンドウが開きます。

(2) ウィンドウ内の枠の中に、ＡＰの電話番号とコメントを登録します。最大で５箇所まで登録することができます。
それぞれの枠の中を左クリックすると、キーボードから文字を入力できるようになります。

(3) それぞれのＡＰについて、ＡＰの種類、回線速度、ＭＮＰの使用の有無を設定します。ウィンドウ内の対応する文字を左クリックして設定します。なお、ＭＮＰは通常は「未使用」の状態にしてください。

(4) 実際に電話をかけるＡＰを選びます。
電話をかけるＡＰの枠の左にある空白の部分を左クリックします。
⇨　「AP >>」のマークが電話をかけるＡＰの枠の横に移動します。

(5) 電話番号を設定したら、 実行 または 取消 でウィンドウを閉じます。
・ 実行 を左クリック　⇨　新しい設定にしてウィンドウを閉じます。
・ 取消 を左クリック　⇨　元の設定のままでウィンドウを閉じます。

Ⅱ－6　ＮＩＦＴＹ-ServeのＩＤを取得する

富士通Habitatをご利用いただくには、パソコン通信サービス「ＮＩＦＴＹ-Serve」に入会し、ユーザーＩＤを取得する必要があります。

(1) 現在すでにＮＩＦＴＹ-ServeのユーザーＩＤをお持ちのお客様は、そのＩＤをそのままご利用いただけます。

(2) まだＩＤをお持ちでないお客様は、付属の「ＮＩＦＴＹ-Serveイントロパック」を使って、ユーザーＩＤを取得してください。
なお、オンラインサインアップを利用されるお客様は、簡易通信機能を利用してすぐに入会することができます。
① 設定メニューの「ターミナル機能」の項を左クリックします。
⇨　Ⅱ－４で設定したＡＰへ電話をかけます。
回線がつながると自動的にＮＩＦＴＹ-Serveのセンタに接続を行います。
② 「Enter Connection ID --->」と表示されたら、「SGN↵」と入力します。
③ 以下、イントロパックの内容に従って、オンラインサインアップの手続きを行います。

※ 簡易通信機能の詳細については、操作ガイドの付録１「ターミナル機能の使い方」をご参照ください。

Ⅱ－7　ユーザー情報を設定する

(1) 設定画面の「設定」プルダウンメニューを開き、「ユーザー情報」の項を左クリックします。
⇨　ユーザー情報設定のウィンドウが開きます。

(2) ユーザーＩＤを設定します。
ユーザーＩＤの枠の中を左クリックすると、キーボードから入力できるようになります。富士通Habitatでご利用になる、ＮＩＦＴＹ-ServeのＩＤを入力してください。

(3) パスワードを設定します。
パスワードの枠の中を左クリックすると、キーボードから入力できるようになります。(2)のユーザーＩＤに対応するパスワードを入力してください。
入力された文字は、画面には表示されず、「＃」で表されています。入力したパスワードを確認するには、 確認 の部分を左クリックしてください。

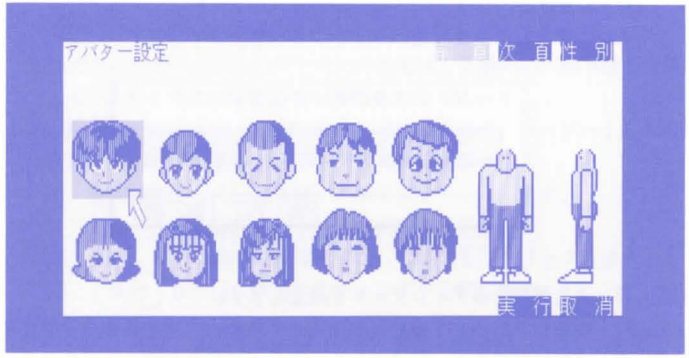
(4) ハンドルネームを設定します。
ハンドルネームは、富士通Habitatの世界で使う、あなたのニックネームです。ハンドルネームの枠の中を左クリックすると、キーボードから入力できるようになります。漢字２０文字（半角文字４０字）以内で入力してください。

(5) ユーザー情報を設定したら、 実行 または 取消 でウィンドウを閉じます。
・ 実行 を左クリック　⇨　新しい設定にしてウィンドウを閉じます。
・ 取消 を左クリック　⇨　元の設定のままでウィンドウを閉じます。

Ⅱ－8　初回アバターを設定する

初めて富士通Habitatにアクセスされる方は、自分の分身となる「アバター」の姿かたちを設定します。
アバターの設定は、後述する「入国」の時のみ有効となります。

(1) 設定画面の「設定」プルダウンメニューを開き、「アバター情報」の項を左クリックします。
⇨　アバター情報設定のウィンドウが開きます。



(2) アバターの頭を選びます。
画面上に表示されている１０種類の頭の中から好きなものを選んで左クリックします。
画面上の頭は 前頁 後頁 の部分を左クリックすることで切り替えることができ、全部で１００種類の中から選ぶことができます。

(3) アバターの性別を選びます。
性別 の部分を左クリックする毎に、アバターの性別が切り替わります。

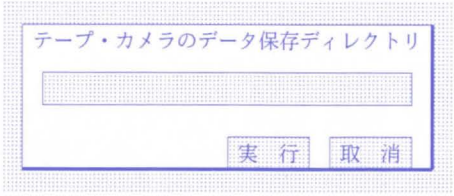
(4) アバター情報を設定したら、 実行 または 取消 でウィンドウを閉じます。
・ 実行 を左クリック　⇨　新しい設定にしてウィンドウを閉じます。
・ 取消 を左クリック　⇨　元の設定のままでウィンドウを閉じます。

Ⅱ－９　データの保存ディレクトリを設する

アクセス中に、テープレコーダ機能を使って会話の内容をファイルに記録したり、カメラ機能を使って画面の様子をファイルに記録することができます。このとき、ファイルを記録するディレクトリを設定します。

テープレコーダ機能、カメラ機能については、「Ⅴ　追加機能について」をご覧ください。

(1) 設定画面の「設定」プルダウンメニュー開き、「ディレクトリ」の項を左クリックします。
⇨　ディレクトリ設定のウィンドウが開きます。



(2) データを保存するディレクトリを設定します。
枠の中を左クリックすると、キーボードから入力できるようになります。
データを保存するディレクトリを、ドライブ名からのフルパス名で入力してください。
なお、ディレクトリを指定しなかった場合には、データはカレントディレクトリ（Ａドライブのルートディレクトリ）に保存されます。

(3) ディレクトリを設定したら、 実行 または 取消 でウィンドウを閉じます。
・ 実行 を左クリック　⇨　新しい設定にしてウィンドウを閉じます。
・ 取消 を左クリック　⇨　元の設定のままでウィンドウを閉じます。

Ⅱ－１０　入出国手続きの設定をする

富士通Habitatにアクセスし、「Habitat国」の国民となるには、「入国手続き」をする必要があります。

また、富士通Habitatへのアクセスを中止し、住民税（データベース使用料）の徴収を止めるには、「出国手続き」をする必要があります。

入出国の手続きは、設定画面で必要な設定をした後、富士通Habitatへアクセスすることで行われます。

入出国と住民税の詳細については、別冊「操作ガイド」をごらんください。

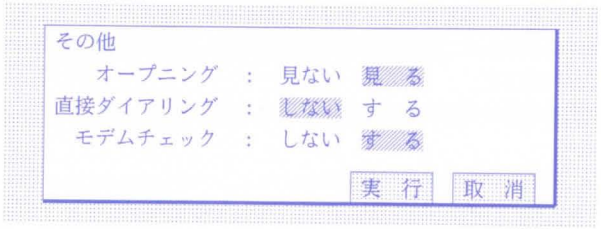
(1) 入国手続きの設定のしかた
・初めて富士通Habitatにアクセスする時は、自動的に入国手続きの設定になっています。特に設定を行う必要はありません。
・一度出国手続きを行った後に再度入国する場合や、ユーザーＩＤを変更して新たに入国する場合は、以下の手順で設定します。
① 設定画面の「入出国処理」の項を左クリックします。
⇨　入出国処理のウィンドウが開きます。
② ウィンドウの中の「入国手続き」の部分を左クリックします。
③ 実行 または 取消 でウィンドウを閉じます。
・ 実行 を左クリック　⇨　新しい設定にしてｳｨﾝﾄﾞｳを閉じます。
・ 取消 を左クリック　⇨　元の設定のままでｳｨﾝﾄﾞｳを閉じます。

(2) 出国手続きの設定のしかた
① 設定画面の「入出国処理」の項を左クリックします。
⇨　入出国処理のウィンドウが開きます。
② ウィンドウの中の「出国手続き」の項を左クリックします。
③ 実行 または 取消 でウィンドウを閉じます。
・ 実行 を左クリック　⇨　新しい設定にしてウィンドウを閉じます。
・ 取消 を左クリック　⇨　元の設定のままでウィンドウを閉じます。

Ⅱ－１１　その他の項目を設定する

(1) 設定画面の「設定」プルダウンメニューを開き、「その他」の項を左クリックします。

⇨　その他の設定のウィンドウが開きます。



① オープニング
起動時にオープニング画面の表示と音楽演奏を行うかどうかを選択します。この設定は次回の起動時から有効になります。

② 直接ダイアリング
起動時にメニュー画面を経由せず、直接ＡＰへのダイアリングを始めるかどうかを選択します。この設定は次回の起動時から有効になります。

③ モデムチェック
ダイアリングの時に、モデムが接続状態のチェックを厳密に行うかどうかを選択します。モデムの仕様によっては正常に接続しても「モデムを接続してください」のエラーメッセージが出力される場合がありますが、この場合は「しない」を選択します。

(2) 各項目を設定したら、 実行 または 取消 でウィンドウを閉じます。

・ 実行 を左クリック　⇨　新しい設定にしてウィンドウを閉じます。

・ 取消 を左クリック　⇨　元の設定のままでウィンドウを閉じます。

環境設定がすべて終わったら、「終了」を左クリックしてメニュー画面に戻ります

Ⅲ　いざ、「Habitat国」へ

以上で、富士通Habitatへ接続するための準備ができました。
それでは、さっそく富士通Habitatセンタへ接続してみましょう。

(1) メニュー画面の「富士通Habitatへ」のを項をマウスで左クリックします。

⇨　Ⅱ－５で設定したアクセスポイントへ電話をかけます。
「ＰＦ10」を押すと接続を中止し、メニューに戻ります。

・「AT」で始まるｺﾏﾝﾄﾞが表示されず、いつまで待っても電話をかけない。

⇨　モデムの接続や設定の誤りと思われます。再度ご確認ください。

(2) 回線の接続に成功すると、「CONNECT 」「COM 」のメッセージの後にマスコット犬の画面に替わり、Habitatセンタに接続を要求します。

① 電話をかけた後、いつまで待っても「CONNECT 」が表示されない。

⇨　ＡＰとモデムで回線速度が一致していないと思われます。
ＡＰ／電話番号の設定を確認してください。

② 「COM」が表示されず、以下のメッセージや数字が繰り返し表示される。

【FENICS-ROAD1】　00+, 21+, 46+, 71+
【FENICS-ROAD2】　Clear DTE, Clear OCC, Clear NC, Clear DER

⇨　サービス時間外、センタビジーなどの理由で接続できない状態です。
しばらく時間を置いてから再度お試しください。

③ それ以外の状態で接続できない。

⇨　通信環境やﾓﾃﾞﾑの設定の誤りと考えられます。設定を確認してください。

(3) 接続に成功すると、音楽が演奏され、続いて下図の通信画面に替わります。

以上で富士通Habitatへの接続が完了しました。
Habitat内での操作については、別冊「操作ガイド」をご覧ください。

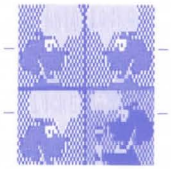
Ⅳ　操作ガイドの変更点

富士通Habitat操作ガイドは、FMTOWNS版をもとに記述されています。PC-9801版では、一部に操作方法が異なる部分が有りますので、ご注意ください。

(1)　ツールボックスの内容（Ⅲ－3－(2)－(c)）

会話エリアを3～6行の間で可変にする　※ ―

会話エリアを6行に固定する ―



― 会話エリアを3行に固定する

― ツールボックスを閉じる

※　会話エリアは、通常3行でスクロールしますが、リージョン内にいるアバターの数が4人以上になった場合、吹き出しがリージョン表示エリアにはみ出して表示され、人数に応じた行数でスクロールするようになります。

※　会話エリアが3行以上になった場合、リージョン上にあるオブジェクトや背景の一部が見えなくなります。

(2)　スクリーンエディタでのファンクションボタンの機能（Ⅲ－7）

①　ファンクションボタンの枠の数は、 1 ～ 10 の10個です。

②　編集モードにおいて、「終了ボタン」は 10 に割り当てられています。

③　閲覧モードにおいて、「次文書」ボタンは 9 に、「終了ボタン」は 10 にそれぞれ割り当てられています。

④　選択モードにおいて、「書き込みボタン」は 8 に、「ステップアップボタン」は 9 に、「終了ボタン」は 10 にそれぞれ割り当てられています。

(3)　簡易ターミナル機能（付録1）

通信の内容は、画面中央の青い部分に表示されます。

Ⅴ　追加された機能

富士通Habitat V2.1L12では、操作ガイドには書かれていない機能がいくつか追加されています。ここでは、以下の3つの追加機能について説明します。

①　カメラ機能 …… 通信中のリージョンの様子をファイルに記録し、後で再生して見ることができます。

②　テープレコーダ機能 …… 通信中の会話の内容をファイルに記録し、後で再生して見ることができます。

③　バックログ機能 …… 通信中に過去の会話を参照することができます。

V－1　カメラ機能

通信中のリージョン画面の様子をカメラデータとしてファイルに記録し、富士通Habitatセンタに接続していない状態でも再生して見ることができます。
また、撮影したカメラデータファイルの中からデータを編集して、アルバムを作ることもできます。

(1)　カメラの撮影

①　ポケットコマンドボード内の「カメラ」アイコンをクリックします

⇨　リージョン画面が一瞬白くなり、その瞬間のリージョンの様子がカメラデータとしてファイルに記録されます。

②　カメラデータファイルは、Ⅱ－9で設定したディレクトリに、次のようなファイル名で記録されます。

例
H_920820.CAM

920820 …… 撮影年月日
CAM …… 拡張子

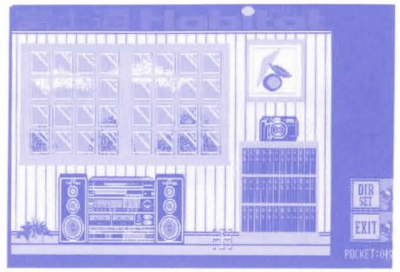
カメラデータファイルは、撮影日1日ごとに1つずつ作られます。
同じ日付けの間に複数回のカメラ撮影を行った場合は、1回ごとに1枚の写真として、1つのファイルに次々にデータが追加されていきます。
なお、カメラデータファイルのファイル名を変更すると、データの再生ができなくなりますので、ファイル名は変更しないでください。

(2) カメラの再生

① メニュー画面で「ユーティリティへ」を左クリックします。

⇨ ユーティリティ画面に変わります。

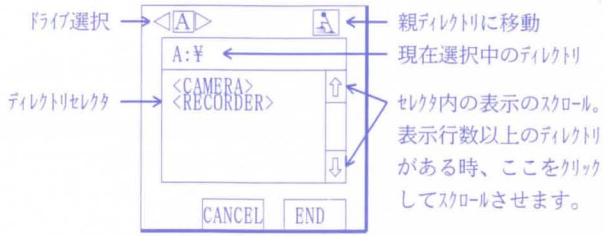
・ EXIT を左クリックするとメニュー画面に戻ります。



② カメラデータファイルが格納されているディレクトリを設定します。

(a) DIR SET のアイコンを左クリックします。

⇨ ディレクトリ設定のウィンドウが開きます。



(b) カメラデータファイルがあるドライブを指定します。

i) 左右の◁▷を左クリックしてドライブを変更します。

ii) 中央のドライブ名を左クリックしてドライブを決定します。

⇨ そのドライブのディレクトリがセレクタに表示されます。

(c) ディレクトリを選択します。

i) ディレクトリセレクタには、現在選択中のディレクトリにあるサブディレクトリの一覧が表示されています。

ii) セレクタ上のディレクトリ名を左クリックすると、そのサブディレクトリに移動します。

iii) ウィンドウ上部の階段のアイコンを左クリックすると、一つ上のディレクトリに戻ります。

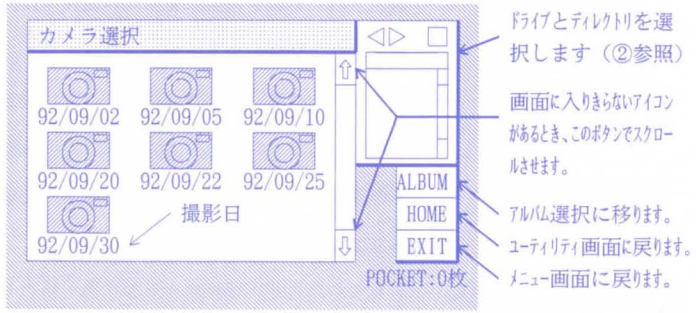
(d) END または CANCEL でウィンドウを閉じます。

・ END を左クリック ⇨ 新しい設定にしてウィンドウを閉じます。

・ CANCEL を左クリック ⇨ 元の設定のままでウィンドウをとじます。

③ 画面上のカメラの部分をマウスカーソルで選び、現れたマウスコマンドの DO を選択します。

⇨ カメラ選択の画面に切り替わります。



画面上に、指定されたディレクトリにあるカメラファイルがカメラのアイコンで表示されます。カメラアイコンは、マウスコマンドで操作します。

DO …… 選択されたカメラデータの中身を見ます（フィルム選択に移ります ⇨④）。

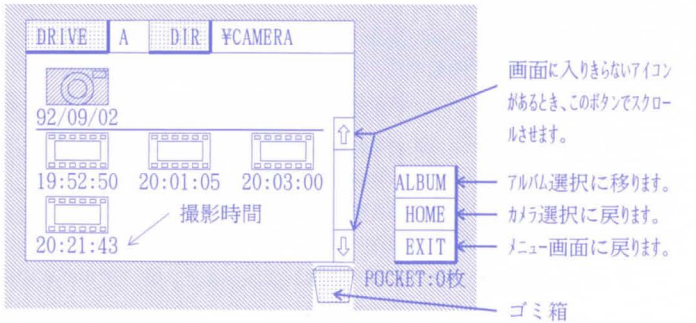
DEL …… 選択されたカメラデータファイルを削除します。

GO …… アルバム選択に移ります。(3)「アルバムの編集」を参照してください。

HLP …… ヘルプ画面を表示します。

④ 見たいカメラデータを指して、マウスコマンドの DO を選択します。

⇨ フィルム選択の画面に切り替わります。



画面上に、選択されたカメラデータファイルの中の各場面の写真が、フィルムのアイコンで表示されます。フィルムアイコンは、マウスコマンドを使って操作します。

DO …… 選択された写真を再生します（写真再生に移ります⇨⑤）。

DEL …… 選択された写真をカメラデータファイルから削除します。

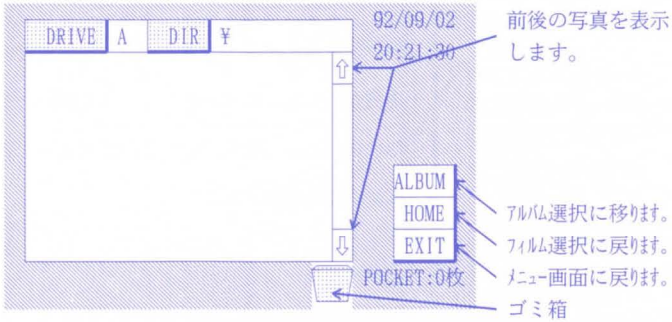
GET …… 選択された写真をポケットに入れます。詳しくは(3)「アルバムの編集」を参照してください。

PUT …… ゴミ箱を使って、ポケットの中の写真を捨てます。(3)「アルバムの編集」を参照してください。

GO …… アルバム選択に移ります。(3)「アルバムの編集」を参照してください。

HLP …… ヘルプ画面を表示します。

⑤ 見たい写真のアイコンを指して、マウスコマンドの DO を選択します。
⇨ 指定した場面のリージョンの写真が画面上に再生されます。



画面右上には、写真が撮影された日時が表示されています。
写真再生画面では、以下のマウスコマンドが使用できます。

DEL …… 表示中の写真をカメラデータファイルから削除します。

GET …… 表示中の写真をポケットに入れます。詳しくは(3)「アルバムの編集」を参照してください。

PUT …… ゴミ箱を使って、ポケットの中の写真を捨てます。詳しくは(3)「アルバムの編集」を参照してください。

GO …… アルバム選択に移ります。(3)「アルバムの編集」を参照してください。

HLP …… ヘルプ画面を表示します。

(3) アルバムの編集

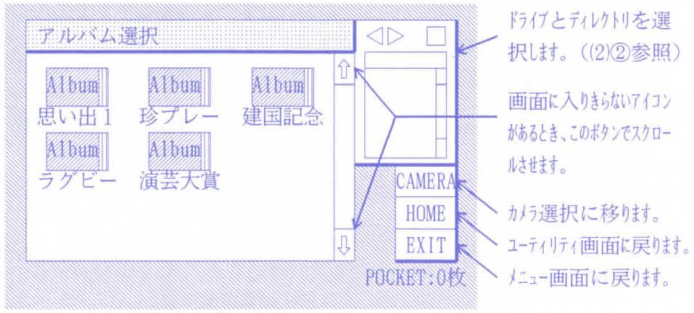
カメラデータの中から任意の場面の写真を編集し、アルバムファイルを作ることができます。

① アルバムを作るには、あらかじめアルバムに載せたい写真を「ポケット」に入れておく必要があります。

(a) フィルム選択または写真再生画面で、マウスコマンドの GET を使い、アルバムに載せたい写真をポケットに入れます。ポケットの中の写真の枚数は、画面の右下に表示されます。ポケットには同時に9枚までの写真を入れることができます。

(b) ポケットの中の写真を捨てる時は、画面下部にゴミ箱が表示されていときに、それを指してマウスコマンドの PUT を選択します。ポケットの中が表示されるので、捨てたいフィルムを選んでマウスを左クリックします。マウスを右クリックすると、写真を捨てずにもとの画面に戻ります。

② ユーティリティ画面で、アルバムの部分を指してマウスコマンドの DO を選択します。
⇨ アルバム選択画面に替わります。



画面上に、指定されたディレクトリにあるアルバムファイルがアルバムのアイコンで表示されます。アルバムアイコンは、マウスコマンドで操作します。

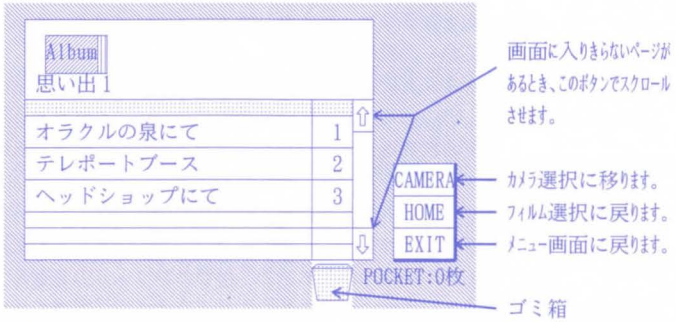
DO …… 選択されたアルバムの中身を見ます（アルバム目次に移ります ⇨③）。アルバムアイコンのない白い部分をDOすると、新しいアルバムファイルを作ります。

DEL …… 選択されたアルバムファイルを削除します。

GO …… カメラ選択に移ります。

HLP …… ヘルプ画面を表示します。

③ 見たいアルバムを指して、マウスコマンドの DO を選択します。
⇨ アルバムの目次画面に替わります。



画面上部に選択されたアルバムとタイトル（アルバムファイル名）が表示され、下部にはそのアルバムの目次が表示されます。
アルバム目次画面では、以下のマウスコマンドが使用できます。

DO …… (a) アルバムアイコンをDOすると、アルバムのタイトル（アルバムファイル名）を変更することができます。タイトルは漢字4文字以内（半角8文字以内）で、それに拡張子「.ALB」が付いたものが、そのままアルバムファイルのファイル名になります。
(b) 目次の部分をDOすると、選択されたページを開きます（アルバム表示に移ります⇨④）。

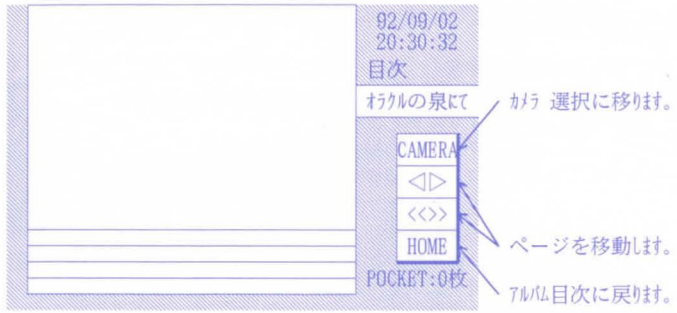
PUT …… (a) 目次の項目の、まだページのない部分にPUTすると、アルバムに新しいページを追加し、ポケットの中の写真を貼ります。ポケットの中が表示されるので、貼りたい写真を選んでマウスを左クリックします。マウスを右クリックすると、ページを追加せずに目次に戻ります。
(b) 目次の項目の、すでにページがある部分にPUTすると、そのページの写真をポケットの中の写真と貼り替えます。ポケットの中が表示されるので、貼りたい写真をマウスで選択します。マウスを右クリックすると、写真を貼り替えずに目次に戻ります。
(c) ゴミ箱にPUTすると、ポケットの中の写真を捨てます。

DEL …… 目次の項目の、すでにページがある部分をDEL すると、選択されたページをアルバムから削除します。

GO …… カメラ選択に移ります。

HLP …… ヘルプ画面を表示します。

④ 目次の項目を指して、マウスコマンドの DO を選択します。
⇨ アルバムのページ表示に切り替わります。



画面中央に、アルバムのそのページに貼られた写真が表示されます。写真の上にはそのページの目次のタイトルが、下にはその写真の付けられた4行のコメントが表示されます。画面右上には、写真が撮影された日時が表示されています。
アルバムページ表示画面では、以下のマウスコマンドが使用できます。

GET …… 表示中の写真をGET すると、その写真をポケットに入れます。

PUT …… 表示中の写真にPUT すると、そのページの写真をポケットの中の写真と貼り替えます。

DEL …… 表示中の写真をDEL すると、アルバムから表示中のページを削除して、アルバム目次に戻ります。

GO …… カメラ選択に移ります。

HLP …… ヘルプ画面を表示します。

また、画面上の特定の部分をマウスで左クリックすることにより、以下の機能が使用できます。
(a) 目次タイトルの部分を左クリックすると、そのページの目次タイトルを変更することができます。目次タイトルは漢字で１０文字までです。
(b) コメント欄を左クリックすると、写真に付けられたコメントを変更することができます。富士通Habitat本体にあるものと同機能のスクリーンエディタが起動しますので、それを使用してコメントを書き込みます。コメントは漢字で３１文字×４行まで書き込むことができます。

Ⅴ－2　テープレコーダ機能

通信中に、画面上部の会話エリアに表示される会話やＥＳＰなどのメッセージの内容を、テープデータとしてリアルタイムでファイルに記録し、富士通Habitatセンタに接続していない状態で再生して見ることができます。

(1)　テープへの録音

①　ポケットコマンドの「テープレコーダ」アイコンを左クリックします。

⇨　テープへの録音が開始されます
テープの録音中は、方向転換のファンクションコマンドの左上部に「REC」と表示されます。

・再度「テープレコーダ」アイコンを左クリックすると録音を終了します。

②　テープデータファイルは、Ⅱ－９で設定したディレクトリに、次のようなファイル名で記録されます。

例
Ｈ＿９２０８２０．ＴＡＰ

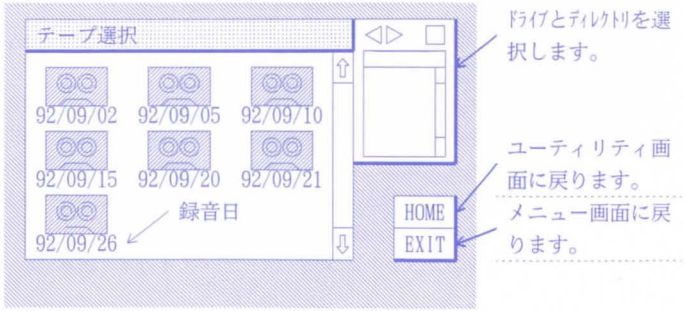
９２０８２０ ････ 録音年月日
ＴＡＰ ････････････ 拡張子

テープデータファイルは、録音日１日ごとに１つずつ作られます。
同じ日付の間に複数回のテープ録音を行うと、１回ごとに１曲として、同じテープに次々にデータが追加されていきます。
なお、テープデータファイルのファイル名を変更するとデータが再生できなくなりますので、ファイル名は変更しないでください。

(2)　テープの再生

①　テープデータの再生は、ユーティリティを使って行います。
ユーティリティ画面（Ⅴ－１－(2)「カメラの再生」参照）で、ステレオの部分を指してマウスコマンドの ＤＯ を選択します。

⇨　テープ選択画面に替わります。



画面上に、指定されたディレクトリにあるテープデータファイルがテープのアイコンで表示されます。テープアイコンはマウスコマンドで操作します。

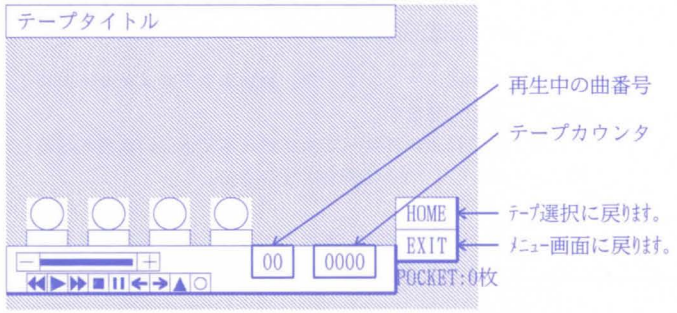
ＤＯ ･････ 選択されたテープデータを再生します（テープ再生に移ります ⇨②）。

ＤＥＬ ･････ 選択されたテープデータファイルを削除します。

ＨＬＰ ･････ ヘルプ画面を表示します。

②　再生したいテープのアイコンを指して、マウスコマンドの ＤＯ を選択します。

⇨　テープの再生画面に切り替わります。



(a)　再生される会話は、中央の青い部分に表示されます。表示部の一番下には、喋ったアバターの顔が表示されます。

(b)　画面最下部のコントロールパネルのボタンを左クリックすると、テープの再生／停止の操作ができます。コントロールパネルの各ボタンの機能は次のとおりです。

▷ □ ･･･ テープの再生開始（▷）および停止（□）

≪ ≫ ･･･ 巻き戻し／早送り △ ･････････ テープ選択に戻る

Ⅱ ･････････････ 一時停止 ◎ ･････････ 吹き出し色の変更

⇦ ⇨ ･･･ 前後の曲の頭出し

(c)　２桁の数字は、再生中の曲番号を表します。４桁の数字は再生中の内容のカウンタを表します。

(d)　＋ － の部分を左クリックすると、テープの再生速度を変化させることができます。

(e)　画面上部のテープタイトルの部分を左クリックすると、タイトルを変更することができます。テープタイトルは漢字で１０文字までです。

Ｖ－３　バックログ機能

富士通Habitatの通信中に、画面の外に消えてしまった過去の会話やメッセージの内容を、最大１２８行までさかのぼって参照することができます。
過去の会話内容を見たい場合は、以下の手順でバックログ機能を使用します。

(1) 会話やＥＳＰ、／コマンドが入力できる状態の時に、カーソルキーの [↑] を入力します（エディタ動作中は、ＥＳＰモードにします）。
⇨ バックログ機能が起動します。
バックログ機能動作中は、リージョン画面の左上の枠の外に、「△▽」のマークが表示されます。

(2) カーソルキーの [↑] [↓] で、会話エリアのメッセージを上下にスクロールさせることができます。
これ以上過去にさかのぼってスクロールできない状態になると、バックログ起動マークが「▽」のみの表示になります。

(3) 過去のメッセージの参照を終わったら、[ESC] を押します
⇨ バックログ機能が終了して、会話エリアに最新のメッセージを表示します。

All Rights Reserved, Copyright ©富士通株式会社 1989-1992
Based on Lucasfilm Technology

富士通株式会社